

令和7年度未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会（中学校国語）

1 目的

各中学校（義務教育学校後期課程を含む。以下同じ。）の国語科の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び授業改善に関する講義・説明等を行うことにより、国語科教員の指導力向上を図り、もって生徒の学力向上に資する。

2 主催 大分県教育委員会

3 期日 令和7年10月21日（火）13:30～16:20

4 場所 大分県教育センター 講堂



5 内容

（1）行政説明及び協議「大分県の中学校国語科の課題と授業改善」

〈説明者〉大分県教育庁義務教育課 指導主事 釘宮 里枝

「1 学力調査の結果から見える大分県の課題」

○全国・県調査の概要

【全国調査】 県の結果 全てにおいて全国平均を下回る。

【県学力調査】 情報の扱い方に関する事項のみ、全国を下回る。

- ・「推敲」の資質・能力の育成に課題がある。←小問の数値だけで言えるかは疑問、深い分析をすると書くことの学習過程における「推敲」に課題があることが見えてくる。
(書くことの「考えの形成・記述」の問題は正答率が全国を上回っている)
- ・推敲の指導について、生徒・教師ともに肯定的回答であるにもかかわらず、結果が全国を下回ることから、定着していないと考えられる。

「2 調査問題や調査結果を踏まえた中学校国語科の授業づくり」

○日頃の「推敲」に関する指導について

- ・日頃の授業の振り返り（各自で） → ペアでの交流
- ・資質・能力が身につけていない → 改善する必要がある。

○調査に基づく授業改善のポイント

ポイント①

学習指導要領の解説と調査問題から、育成を目指す資質・能力を身につけた生徒の姿を明確にする。

ポイント②

解答類型を基に、生徒の解答状況を把握し、つまづきを見極める。

ポイント③

ポイント①、②を踏まえて授業改善を行う。

【ポイント①】

- ・まずは調査問題を解くところから始める → R7の推敲の問題を解いて解答を確認した。
R5の推敲の問題の説明
- ・問題についての正誤や正答率だけでなく、解答状況等に注目する。

【ポイント②】

- ・R7の問題における解答類型と反応率の確認
- ・語順については、生徒が文の構造を理解していない。

【ポイント③】

- ・読み手や目的に応じて、修正する必要があるのかを検討する「推敲」を行えるようにする。
- ・「推敲」の視点となる「知識及び技能」を理解し、活用できるようにする。

「★協議」

教科書の教材をもとにして、以下の2点を実現できる「学習活動」及び「指導上の留意点」を具体的に考える。

1. 読み手や目的に応じて、修正する必要があるのかを検討する「推敲」を行えるようにする。
2. 「推敲」の視点となる「知識及び技能」を理解し、活用できるようにする。

【発表】

(E グループ)

- ・全員共通の認識として、相手の確認、ゴールを明確にすること、校正を確認することが大切である。
- ・下書きの推敲はモデル文を提示する。
- ・本当に伝わるか意識させた推敲をさせたい。



(F グループ)

- ・具体的な読み手の設定が、伝え方や表現を変えることになる。
- ・下書きの推敲には、チェックシートで基準を示すと効果的である。
- ・例文やエラーを示し、子どもたちに推敲させると基準を示すことができる。
- ・調べるときにタブレットを使っているか、使い方の情報共有も必要である。

「まとめ」

- 推敲の際、「誰に対してか」を明確にし、「なぜそう変える必要があるか」という意図を明確にさせる。
- 「知識・技能」については、チェックリストなどを活用し、視点がないために子どもたちが戸惑うことを防ぐ。
- 読み手に効果的に伝わるような文章にするための推敲の視点を意識し、3年間を見通した系統的かつ効果的な指導計画を作成することが求められる。

(2) 講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校国語科の授業づくり」

＜講師＞国立教育政策研究所教育課程調査官・学力調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 鈴木 太郎 氏

○国語科に関する現状と検討課題

(課題) 目的や場面に応じたコミュニケーション、目的に応じた文章理解

- ・授業参観等において、子どもたちが目的、相手、状況や場面に合わせて言葉を使えていない状況が見られ、主体的な社会参画のためのコミュニケーション能力の育成が必要である。子どもたちが目的、相手、状況や場面にあわせて言葉を使えていない。

○目的や意図に沿って文章を書く

(全国学力・学習状況調査の課題) 誤答例から、文章を書く目的が実現できていない、伝わるように書けていないという課題が見られる。全国学力・学習状況調査の問題から自分の考えが伝わる文章になるように工夫できているか見取することに問題がある。

- ・3年間でどんな力を身につけるのか。今回は1年生の根拠を明確にする。
- ・指導事項である「自分の考えが伝わるように書く」力を育成するため、自分の目的のために知識・技能を活用することを子どもたちと共有する。

(授業アイデア例)

- ・アンケートを基に、新入生説明会を充実させるためのアイデアを考える。
- ・自分が考えたアイデアを提案する文章を書く。
- ・書いた文章を検討する。
- ・自分の文章を改善する。



- ・不十分な文を修正するときの視点を示すことが大切。
- ・「読み手に納得してもらうためには、根拠となる事実を説明する必要がある。」など



【学習の進め方で大切なこと】

資質・能力・・・・・・根拠を明確にし、自分の考えが伝わる文章を書けるよう工夫

具体的な経験・・・・・・目的を明確にして言語活動に取り組み、試行錯誤（自らの学習状況の把握と改善を促す指導）

抽象的な概念・・・・・・学習を振り返り、ポイントを理解

【なりきり作文】(R6 全国学力・学習状況調査の問題より)

- ・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する力を見取る問題。
- ・表現技法は使っているが、目的に沿っていない。 ← 子どもたちが書きたいように書いている。

〔授業における評価基準で気をつけること〕

- ・授業で表現技法をたくさん使わせるのではなく、表現技法にどんな効果があるのかを理解させる。
- ・表現技法をいくつ使えたかに着目した評価基準になっていないか。

(授業アイデア例)

- ・モデル文を基に、表現の効果を考えて描写を工夫することについて理解し、物語の構想を練る。
 - ・表現効果を考えながら、描写を工夫して物語の下書きを書く。
 - ・書いた物語の描写の工夫について検討する。
 - ・検討したことを踏まえて文章を修正する。
 - ・書いた物語を推敲し、清書する。
 - ・単元の学習の振り返り（質の高い振り返りを促す）
- *フィードバックは大切であるが、フィードバックのときに適切な支援をする。支援の仕方は状況に応じて考える。

資質・能力・・・・・・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章を書けるよう工夫

具体的な経験・・・・・・目的を明確にして言語活動に取り組み、試行錯誤（自らの学習状況の把握と改善を促す指導）

抽象的な概念・・・・・・学習を振り返り、ポイントを理解

○まとめ

- ・育成を目指す資質・能力（指導事項）が位置付けられている学習過程を意識することが重要である。
- ・思考・判断・表現したことが、相手・目的・場面などに適しているかを吟味させる。
- ・この吟味の際には、（言葉の意味や働き、使い方などに着目し、吟味する）ことが必要である。

(講演全体を通して強調された、学習の進め方における重要なポイント)

- ・具体的な経験（目的を明確にして言語活動に取り組み、試行錯誤）を通じて、自らの学習状況の把握と改善を促す指導を行う。
- ・抽象的な概念（学習を振り返り、ポイントを理解）として捉えさせる。
- ・フィードバックは大切であり、フィードバックのときに適切な支援を、状況に応じて考えることが重要である。